

肝移植症例登録報告（第一報）

日本肝移植研究会

Liver Transplantation in Japan in 2006 —Registry by the Japanese Liver Transplantation Society—

The Japanese Liver Transplantation Society

【Summary】

Five hundred and ten liver transplants were performed in 48 institutions in 2006. There were 5 cadaveric transplants (all from heart-beating donor) and 505 living-donor transplants. Most popular indication was cholestatic disease for children, and neoplastic disease for adults. As for the graft liver in living-donor transplants, right lobe graft was used in 57.3% of adult cases, whereas lateral segment graft was used in 66.4% of pediatric cases. Average number of transplants per institution was 10.6 (range 1-78, median 7).

Keywords: Japanese Liver Transplantation Society, registry, cadaveric liver transplantation, living-donor liver transplantation

I. はじめに

日本肝移植研究会は、1992年より肝移植症例の登録を開始し、1998年、2000年、2002年に、そしてそれ以降は毎年集計結果を誌上報告してきた¹⁻⁷⁾。現在2006年末までの肝移植症例につき二次調査/予後調査を施行中であるが、今回本号で各臓器の登録について特集を組まれるとのことであり、今年はず2006年の移植例のみについて第一報として本号で報告し、2006年末までの全症例についての、予後を含めた報告は、例年通り次号（42巻6号）で行いたい。

II. 対象と方法

本研究会では、2001年以降、レシピエント情報を中心とした9項目よりなる一次登録用紙（「肝移植実施報告用紙」）を移植当日または翌日に事務局宛 FAX していただき、年1回このデータをもとに二次調査/予後調査を行っている。

今回の集計対象は2006年1月から12月の1年間に本邦で施行された肝移植である。2007年9月30日までに登録された肝移植のうち、移植日が2006年のものを対象とした。

III. 結果と考察

2006年の肝移植の総数は510であり、ドナー別では、死体肝移植が5（すべて脳死移植）、生体肝移植が505であった（表1）。回数別では初回移植が501、再移植が9であった。再移植はすべて生体移植であった。

レシピエントの年齢と性別の分布を、表2（死体移植）、表3（生体移植）に示す。死体移植と生体移植を合わせた年齢分布を見ると、50歳台が36.9%と最多を占め、次いで0歳台19.0%、60歳台16.3%、40歳台12.4%、10歳台6.9%、30歳台5.1%、20歳台3.5%の順であった。なお、レシピエントの最低齢は0歳3カ月、最高齢は69歳であった。

表1 本邦の肝移植実施数（2006）

生体肝移植	505
死体肝移植	5
脳死肝移植	5
心停止肝移植	0
初回移植	501
再移植	9

Japanese Liver Transplantation Society

表2 レシピエントの年齢・性別：死体肝移植（2006）

年齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	計
男性	0	0	0	1	2	0	0	3
女性	0	0	0	1	0	1	0	2
計	0	0	0	2	2	1	0	5

Japanese Liver Transplantation Society

表3 レシピエントの年齢・性別：生体肝移植（2006）

年齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	計
男性	42	13	8	9	34	106	42	254
女性	55	22	10	15	27	81	41	251
計	97	35	18	24	61	187	83	505

Japanese Liver Transplantation Society

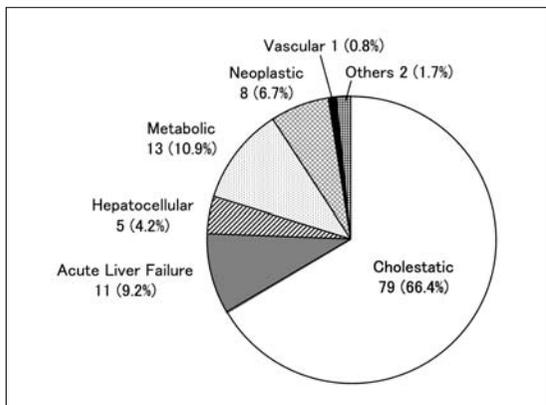


図1A 生体肝移植の原疾患：小児，初回移植(n=119)

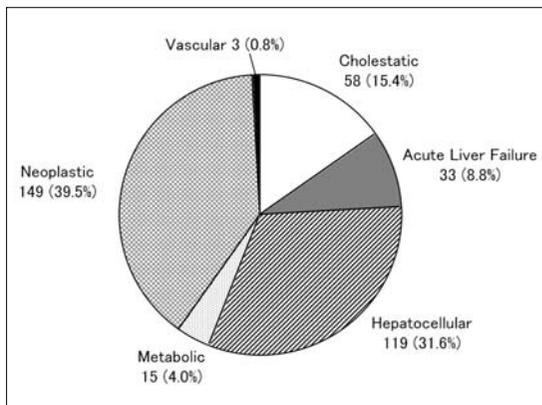


図1B 生体肝移植の原疾患：大人，初回移植(n=377)

死体肝移植のレシピエントの原疾患は、肝細胞性疾患が2(HCV 1, アルコール性 1), 急性肝不全(HBV), 代謝性疾患 (familial amyloid polyneuropathy : FAP), 腫瘍性疾患 (HCC/HCV) が各1であった。

次に、生体肝移植の原疾患を、小児・大人別に示す。小児 (18歳未満, 図1A) では、胆汁うっ滞性疾患が66.4%と最多を占め、内訳は胆道閉鎖症70, 原発性硬化性胆管炎4, Alagille 4, Byler 1であった。次に代謝性疾患が多く、Wilson 4, メチルマロン酸血症4, OTC欠損症2, 糖原病2 (いずれも1b), カルバミルリン酸合成酵素欠損症1であった。次いで、急性肝不全はすべて原因不明 (11), 腫瘍性疾患は肝芽腫7, 限局性結節性過形成1, 肝細胞性疾患はいわゆる cryptogenic cirrhosis 5, 血管性疾患は門脈欠損症1, 「その他」は先天性肝線維症2であった。一方、大人 (18

歳以上, 図1B) では、腫瘍性疾患が39.5%と最も多く、内訳は肝細胞癌145, 転移性肝腫瘍3 (すべて脾神経内分泌腫瘍), 肝血管腫1であった。肝細胞癌に伴う慢性肝病変はHCV 84, HBV 51 (うち2は+HCV), cryptogenic cirrhosis 4, 原発性胆汁性肝硬変3, アルコール性2, 自己免疫性肝炎1であった。肝細胞性疾患が31.6%と次に多く、HCV 58, HBV 28 (うち, +アルコール2, +HCV 1), アルコール性15, cryptogenic cirrhosis 12, 自己免疫性4, NASH 2であった。続いて胆汁うっ滞性疾患は原発性胆汁性肝硬変37, 胆道閉鎖症10, 原発性硬化性胆管炎10, Alagille 1, 急性肝不全はHBV 9, 自己免疫性3, 薬剤性2, 原因不明19, 代謝性疾患はWilson 7 (うち1は+HCV), FAP 4, シトルリン血症2, 肝アミロイドーシス1, 糖原病1, 血管性疾患はBudd-Chiari症候群2, 肝動脈脈

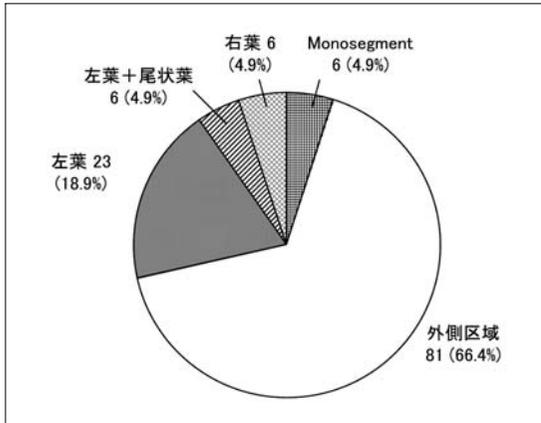


図 2A 生体肝グラフト：小児 (n=122)

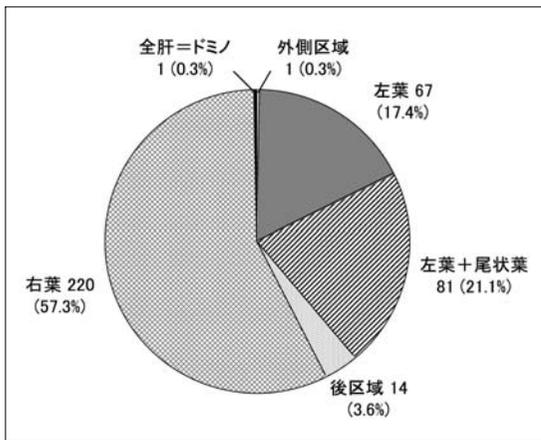


図 2B 生体肝グラフト：大人 (n=384)

瘻 1 であった。

肝グラフトの種類は、死体肝移植は 5 例全例が全肝グラフトであった。

次に、生体肝移植のグラフトの種類を、小児・大人別に示す。小児(図 2A)では、外側区域グラフトが約 3 分の 2 を占めた。大人(図 2B)では、右葉が半数以上を占めた。なお、1 人のレシピエントが 2 人のドナーから肝の提供を受けるいわゆる「dual graft」が 1 例あり、おのおの右葉と左葉+尾状葉を提供された。

2006 年に肝移植を施行した施設の数 は 48 であった。脳死移植・生体移植別に、各施設の肝移植実施報告数を表 4 に示す。1 施設あたりの平均の移植数は

表 4 施設別肝移植実施報告数 (2006)

都道府県	施設	脳死肝	生体肝	計
北海道	北海道大学	0	18	18
青森県	弘前大学	0	2	2
宮城県	東北大学	1	6	7
山形県	山形大学	0	1	1
福島県	福島県立医科大学	0	3	3
茨城県	筑波大学	0	3	3
栃木県	自治医科大学 獨協医科大学	0 0	16 4	16 4
群馬県	群馬大学	0	5	5
千葉県	千葉大学	0	6	6
東京都	慶応義塾大学 国立成育医療センター 順天堂大学 東京医科歯科大学 東京医科大学 東京女子医科大学 東京大学 日本医科大学 日本大学	0 0 0 0 0 0 1 0 0	16 18 8 2 15 2 34 1 2	16 18 8 2 15 2 35 1 2
神奈川県	神奈川県立こども医療センター 横浜市立大学	0 0	4 10	4 10
新潟県	新潟大学	0	7	7
富山県	富山大学	0	2	2
石川県	金沢医科大学 金沢大学	0 0	1 13	1 13
長野県	信州大学	1	14	15
愛知県	名古屋大学 藤田保健衛生大学	2 0	13 9	15 9
三重県	三重大学	0	11	11
京都府	京都大学 京都府立医科大学	0 0	78 11	78 11
大阪府	大阪医科大学 大阪市立大学 大阪大学 関西医科大学	0 0 0 0	1 2 21 1	1 2 21 1
兵庫県	神戸市立中央市民病院 神戸大学 兵庫医科大学	0 0 0	8 7 1	8 7 1
奈良県	奈良県立医科大学	0	1	1
岡山県	岡山大学	0	24	24
広島県	広島大学	0	16	16
徳島県	徳島大学	0	1	1
愛媛県	愛媛大学	0	8	8
福岡県	九州大学 福岡大学 福岡徳洲会病院	0 0 0	36 2 1	36 2 1
長崎県	長崎大学	0	8	8
熊本県	熊本大学	0	32	32
計		5	505	510

10.6 (1~78, 中央値7) であった。なお, 1989年から2006年の間に肝移植を1例以上施行した施設はすべてで58施設である。

IV. おわりに

肝移植研究会が1992年以来行ってきた症例登録の第8回の集計結果の第一報を誌上で公にすることができた。先に挙げた多くの施設のご協力の賜であり, 稿を終えるにあたり改めて感謝の意を表したい。

文責：日本肝移植研究会
浅原利正, 梅下浩司, 門田守人

文 献

- 1) 肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 肝臓 1998; 39: 5-12.
- 2) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2000; 35: 133-144.
- 3) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2002; 37: 245-251.
- 4) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2003; 38: 401-408.
- 5) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2004; 39: 634-642.
- 6) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2005; 40: 518-526.
- 7) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 2006; 41: 599-608.